



更なる工業技術センターのご利用を！

前所長 遠矢 良太郎

このたび、3月31日をもちまして、工業技術センター所長を最後に、33年間勤務しました県を退職いたしました。これまでご指導、ご支援を賜りました産業界の皆様方に心からお礼を申し上げます。昭和45年に県に採用され、木材工業試験場、工業技術センター、工業振興課を経まして最後の1年間は工業技術センター所長として務めて参りました。所長として大変短期間ではありましたが、熱心な職員の方々や産業界の皆様のご熱意とご支援があって、任務を全うできたものと感謝しています。

この1年間の取り組みをご紹介しますと、

1 研究成果の結実

研究は成果を得るための地道な作業であります。研究成果が実用化されるためには更に大きな努力が必要であります。研究成果は実用に供されて、はじめて研究が実を結ぶと考えて参りました。死の谷にならぬように、実用化に向けて、産業支援機関である(財)かごしま産業支援センターや(社)鹿児島県工業倶楽部との連携強化を図って参りました。また、研究シーズの源泉である鹿児島大学や鹿児島工業高等専門学校などをはじめ、内外の学術研究機関との連携を深めながら、新たな事業創出を目指して参りました。

2 産学官連携

鹿児島県は全国でも早い段階から産学官連携に取り組み、鹿児島大学の中に(財)かごしま産業支援センターの「産学官連携課」を設け、また産学官の代表による「かごしま産学官連携サミット」を実施しています。工業技術センターは研究開発分野で、産学官連携による文部科学省の「科学技術振興調整費」、「都市エリア産学官連携促

進事業」、経済産業省の「地域新生コンソーシアム事業」等の公募型事業に参画しています。産学官が持てる力を発揮して、産学官一体となって、新規事業創出を図っています。今後はさらに、企業のニーズや市場のニーズの把握に努め、産学官が連携して実施し、付加価値の高い新製品・新技術の創出に貢献していただけたらと思います。

3 プレス発表

産業界の皆様方をはじめ県民の皆様から、期待される試験研究機関でありたいと思い、研究活動や技術支援活動を広く県民の方々に知っていただくために、県内企業との共同研究の成果、研究成果の事業化、全国での最優秀賞受賞、学会賞等機会を捉えてプレス発表を行いました。

4 産業振興に向けて

県内の経済環境は厳しいものがありますが、焼酎業界は躍進的に、電子関連業界もデジタルカメラや携帯電話の需要増で活況を呈しています。これら業種の皆様には県内産業の牽引力となっただけのものご期待しています。また、県の工業施策として「食の産業クラスター」と「電子デバイスフロンティア構想」が立てられていますし、工業技術センターもその中で重要な役割を担っています。

以上、1年間の取り組み状況を申し上げましたが、産業界の皆様におかれましては、工業技術センターにお気軽にお出かけいただき、利用していただきますようよろしくお願い申し上げます。

伊藤新所長も、皆様のご期待に添える工業技術センターを目指しておりますので、よろしくお願い申し上げます。最後に皆様の益々のご発展を祈念しまして、退職のご挨拶と致します。